

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2008年4月)

発表日 2008年5月12日(月)

～DIIは底這い状態～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
07年	1	47.2	45.7	47.3	56.3	50.9	50.6	49.8	55.1	44.4	41.3	47.1	58.3
	2	49.2	47.9	49.8	55.9	52.1	52.3	49.6	55.9	46.8	44.1	49.8	57.4
	3	50.8	49.9	50.9	56.3	51.3	51.6	47.9	56.6	47.8	45.2	50.1	59.2
	4	49.7	48.2	50.4	57.1	51.9	51.4	50.7	57.2	46.8	44.1	49.7	57.9
	5	46.8	46.4	45.9	50.7	50.0	50.0	47.7	55.0	44.0	42.3	44.7	53.4
	6	46.0	45.1	46.2	51.2	48.4	47.9	48.6	50.9	43.9	41.9	46.3	52.0
	7	44.7	42.8	47.4	51.2	46.7	46.0	46.3	52.0	41.5	38.4	45.7	52.0
	8	44.1	43.7	43.1	48.3	46.5	46.1	46.3	49.7	42.1	40.7	43.3	49.1
	9	42.9	41.7	43.5	48.8	46.0	45.8	44.9	49.6	40.2	37.8	43.5	49.1
	10	41.5	41.3	41.0	43.8	43.1	42.8	42.1	46.6	39.8	37.5	43.4	47.4
	11	38.8	38.4	38.8	41.9	38.8	38.4	37.9	43.1	38.4	36.8	40.6	44.4
	12	36.6	36.5	36.5	37.5	37.0	36.4	37.5	39.7	36.4	35.1	38.6	39.7
08年	1	31.8	31.5	31.7	34.1	35.8	35.5	36.1	37.5	31.5	30.3	32.7	37.1
	2	33.6	33.1	34.4	35.0	39.5	39.6	38.6	40.4	31.5	30.0	33.5	37.0
	3	36.9	37.4	36.0	35.5	38.2	38.8	36.1	39.0	34.9	34.8	34.8	36.0
	4	35.5	35.6	35.9	33.6	36.1	36.3	36.4	34.4	33.0	32.4	34.5	34.3

前年差

07年	1	▲ 4.9	▲ 4.8	▲ 4.7	▲ 6.6	▲ 5.5	▲ 5.3	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 3.8	▲ 4.2	▲ 3.3	▲ 2.0
	2	▲ 4.3	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 6.5	▲ 4.5	▲ 4.0	▲ 6.1	▲ 5.1	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 2.5	▲ 3.6
	3	▲ 6.5	▲ 6.1	▲ 6.6	▲ 9.2	▲ 4.9	▲ 4.6	▲ 6.1	▲ 4.7	▲ 5.6	▲ 6.3	▲ 3.8	▲ 5.6
	4	▲ 4.9	▲ 4.9	▲ 4.3	▲ 7.3	▲ 3.1	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 1.9	▲ 3.8	▲ 4.0	▲ 3.2	▲ 3.9
	5	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.7	▲ 8.9	▲ 3.8	▲ 3.6	▲ 4.3	▲ 3.4	▲ 4.2	▲ 3.6	▲ 5.2	▲ 6.0
	6	▲ 3.1	▲ 2.2	▲ 3.9	▲ 7.0	▲ 3.4	▲ 3.4	▲ 2.1	▲ 6.5	▲ 2.4	▲ 1.6	▲ 2.4	▲ 7.3
	7	▲ 3.7	▲ 3.7	▲ 2.7	▲ 6.0	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 2.4	▲ 5.8
	8	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.0	▲ 11.5	▲ 5.0	▲ 4.9	▲ 3.6	▲ 8.7	▲ 5.2	▲ 4.6	▲ 4.3	▲ 10.3
	9	▲ 8.1	▲ 7.5	▲ 7.7	▲ 12.4	▲ 6.8	▲ 6.7	▲ 6.3	▲ 8.4	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 11.8
	10	▲ 9.3	▲ 7.8	▲ 10.2	▲ 16.8	▲ 9.4	▲ 9.1	▲ 9.2	▲ 12.7	▲ 8.0	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 13.8
	11	▲ 10.1	▲ 9.1	▲ 10.8	▲ 14.1	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 10.2	▲ 13.1	▲ 8.0	▲ 6.5	▲ 9.1	▲ 14.6
	12	▲ 12.3	▲ 11.1	▲ 13.7	▲ 17.0	▲ 11.9	▲ 11.5	▲ 12.3	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 8.6	▲ 11.5	▲ 16.3
08年	1	▲ 15.4	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 22.2	▲ 15.1	▲ 15.1	▲ 13.7	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 11.0	▲ 14.4	▲ 21.2
	2	▲ 15.6	▲ 14.8	▲ 15.4	▲ 20.9	▲ 12.6	▲ 12.7	▲ 11.0	▲ 15.5	▲ 15.3	▲ 14.1	▲ 16.3	▲ 20.4
	3	▲ 13.9	▲ 12.5	▲ 14.9	▲ 20.8	▲ 13.1	▲ 12.8	▲ 11.8	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 10.4	▲ 15.3	▲ 23.2
	4	▲ 14.2	▲ 12.6	▲ 14.5	▲ 23.5	▲ 15.8	▲ 15.1	▲ 14.3	▲ 22.8	▲ 13.8	▲ 11.7	▲ 15.2	▲ 23.6

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の現状判断(方向性)								
	DI				前月差				
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
07年	1	49.2	47.5	50.9	60.3	-1.2	-0.9	0.1	3.2
	2	49.8	48.5	49.8	56.2	0.6	1.0	-1.0	-4.1
	3	47.6	46.3	48.3	54.2	-2.1	-2.2	-1.6	-2.0
	4	47.5	46.0	48.1	54.4	-0.2	-0.4	-0.2	0.3
	5	46.4	45.4	46.0	52.2	-1.1	-0.6	-2.1	-2.2
	6	46.2	45.2	46.7	51.9	-0.1	-0.2	0.7	-0.3
	7	45.3	43.8	46.8	50.5	-0.9	-1.4	0.1	-1.4
	8	44.1	43.6	43.8	47.8	-1.2	-0.3	-3.0	-2.7
	9	42.9	42.1	43.1	46.6	-1.2	-1.4	-0.7	-1.2
	10	41.9	42.5	41.2	43.2	-1.0	0.3	-1.9	-3.3
	11	39.5	39.1	39.3	42.6	-2.4	-3.3	-1.9	-0.7
	12	37.6	37.1	36.7	39.2	-1.9	-2.1	-2.6	-3.4
08年	1	33.1	32.8	34.1	36.7	-4.5	-4.3	-2.6	-2.5
	2	34.0	33.5	34.3	35.1	0.8	0.7	0.2	-1.6
	3	34.5	34.6	34.1	34.0	0.6	1.1	-0.2	-1.0
	4	34.0	34.0	34.4	32.0	-0.6	-0.6	0.3	-2.0

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

## ○ 底這い状態

4月の景気ウォッチャー調査は、現状判断D I（方向性）が35.5と前月から▲1.4ポイント悪化、先行き判断D Iも36.1と前月から▲2.1ポイント悪化した。なお、季節性を排除するために季節調整をかけた場合には、現状判断D Iは全体で34.0（3月34.5）、家計動向関連が34.0（3月34.6）、企業動向関連が34.4（3月34.1）、雇用関連が32.0（3月34.0）となる。企業部門を除いて悪化している。

現状判断D Iは、2月、3月には2ヵ月連続で小幅改善していたが、3ヵ月ぶりの悪化となった。均してみれば、一時期のような大幅悪化には歯止めがかかっており、一段の悪化は避けられているが、目立った改善もまたみられない。08年1月以降、ほぼ底這い状態にあるといえるだろう。D Iの水準自体も低く、家計・企業の景況感はかなり弱い。

## ○ 原材料価格高騰と食品価格高がD Iを下押し

ウォッチャーのコメントで目立つのは、やはり原材料価格の高騰と食料品高である。企業部門では価格転嫁が進まないなかでの収益圧迫を訴える声が多く、家計部門では生活必需品値上げに対応した買い控えの広がり指摘する声が多い。これまでの調査でもこうしたコメントは多かったが、今月は特に目立つ印象を受けた。消費者物価指数でも確認できる通り、食料品価格の上昇幅がこのところ早いペースで拡大していることを受けてのものだろう。「かつてないほどの価格に対する敏感さと慎重な買い物姿勢がうかがえる」「必要最小限のものしか買わない」「特売品にしたら極端に売れ出す」など、生活防衛意識の強まりを示すコメントが見られている。

なお、揮発油税の暫定税率期限切れについては、ガソリン代負担の軽減が消費を押し上げたというコメントは特にみられず、むしろ5月の税率再引き上げによる消費の下押しを懸念する声が目立った。これは、調査期間が25日～月末にかけてであり、ちょうど暫定税率の復活が政府・与党で議論されていた時期に重なっていたことが影響した可能性もあるかもしれない。

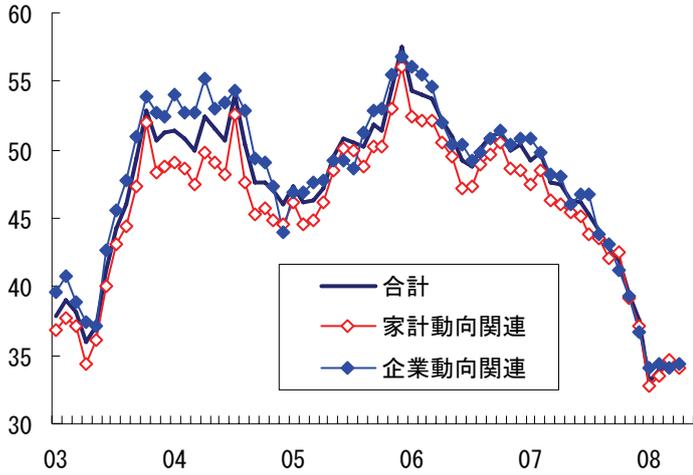
家計部門を業態別（季節調整値）にみると、コンビニエンスストアや一般小売店では小幅改善したものの、百貨店やスーパー、家電量販店などでは前月から悪化している。景気ウォッチャー調査から判断すれば、4月の個人消費にはあまり期待できないということになる。

なお、07年後半のD Iを押し下げてきた改正建築基準法についてのコメントは徐々に減ってきており、かつてのような大きな悪影響は見られなくなっている可能性が高い。その一方で、揮発油税の暫定税率期限切れに関連して、公共工事の発注が停止しているため受注量が大幅に減っているとのコメントが建設業者から複数聞かれている。

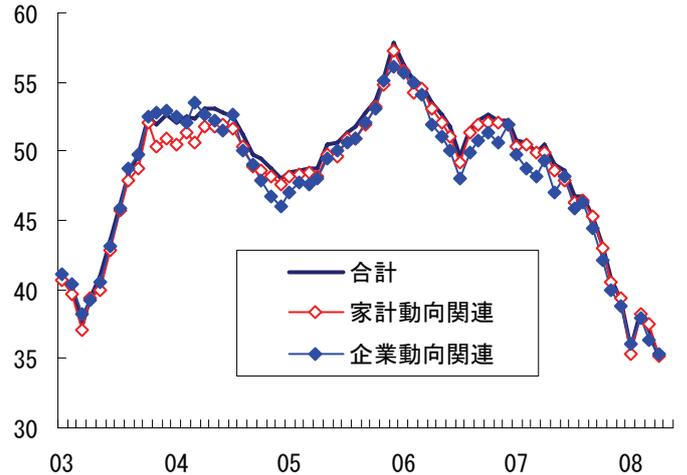
## ○ 先行き、一段の悪化は避けられる見込み

先行きのD Iについては、当面、底這いもしくは緩やかな改善を予想する。これまでD Iの押し下げ要因になってきた主な要因は、原材料高、食料品・日用品値上げ、住宅着工急減の3つであるが、このうち住宅着工関連については、水準は低い最悪期は脱しているとみてよいだろう。原材料高や食料品・日用品値上げについては、今後もかなりの品目で値上げが予想されていることから、引き続きマイナス要因になると考えられるが、「追加的な押し下げ度合い」という意味では今後徐々に影響は小さくなっていくと予想される。株価が一時期に比べれば持ち直していることや、先行きの景気減速が限定的にとどまると予想されることなども合わせて考えれば、D Iがこの先一段と悪化していくことはなんとか避けられるのではないだろうか。

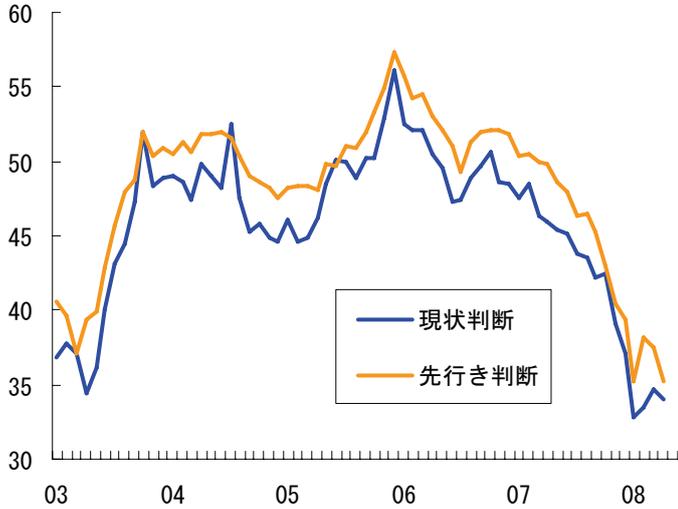
景気の現状判断D I（方向性、季調値）



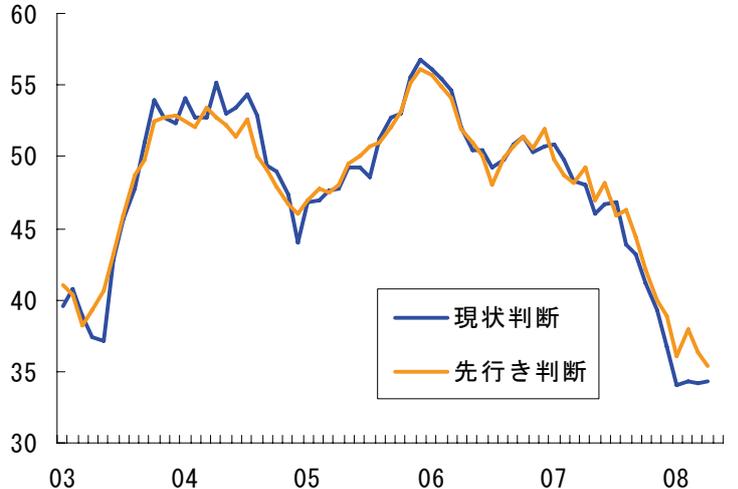
景気の先行き判断D I（方向性、季調値）



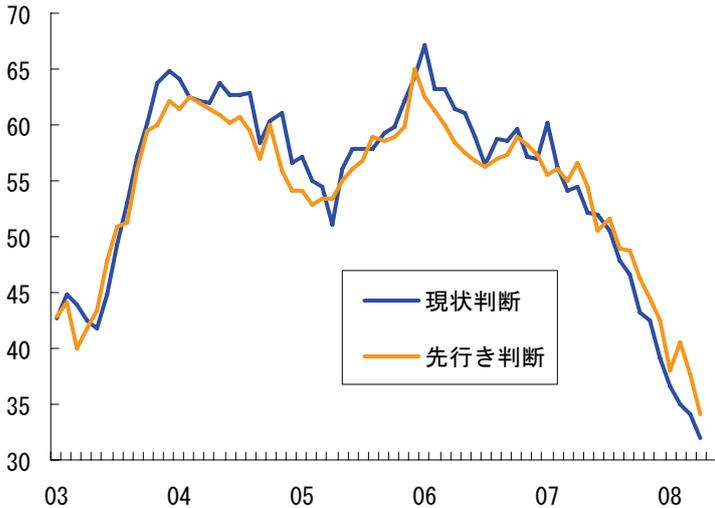
家計動向関連（季調値）



企業動向関連（季調値）



雇用関連（季調値）



住宅関連（季調値）

